

刊夕日六月四



定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓  
廣告料 五號以上 一行五圓 五號以下 一行三圓  
日曜祭日の週日休刊  
発行所 常報日新聞社 福島縣平町五丁目  
電話 六三〇  
印刷所 常報日新聞社 福島縣平町五丁目

### 映畫脚本 旅合羽 (二)

一丁目 木津茂太郎

○又も芝居の幕が開くと今度は矢張近松の狂言で『阿波の鳴渡』夕霧伊左衛門紫紅と綱之丞のたしものである。

○棧敷の正面にゐるのはさる身分のある女で今役者の一人が挨拶に来てゐるつまり御殿女中の筆頭らしい、役者は嵐梅女である。

○おやすが市藏の手をにぎる。市藏がにぎり返す。そして二人顔を見合ひにつこりとする。

(タイトル)

かうして見えず知らずの他人同士が結ばれたが……

○心学院町  
しまたやばかりの町並である。所々に柳が青い葉をなびかせてゐる。  
——この町を大きく斜に見せる。

○空。白いもや／＼した雲  
○カメラがうごくとおやすの家でとまる。  
畫下りである。  
障子に日かげがうら／＼である。  
その障子がスウツと開く。

○おやすそのまゝ行かうとする。  
部屋の中に聲あつて  
(タイトル)  
お待ちなさいよ、おやすさん  
と云つたのは番頭の大作  
大作はおやすに思ひをかけたゐるのだ。  
○厭だといふ表情のおやす  
○夜。——  
○夜の町。  
○夜鷹そばやがある。客がある。  
○江州屋といふ行燈がかゝつてゐる。  
材木問屋である。  
これが市藏の家である。  
○市藏が何處かへ出てゆくそわ／＼した素振。  
○おやすの家。  
附近の町筋。  
○市藏がうろ／＼うろついてゐる。  
(タイトル)  
切ない戀だつた。  
人を戀ふこゝろだつた。  
○市藏は毎日毎夜おやすの面影を求めて徘徊する。  
(タイトル)

○町縁で女中たちとぞろ／＼歩いてゐるおやす  
○市藏はもたへる。  
内氣な故もたへる。  
(タイトル)  
おやすは——  
彼女は——  
市藏を何んとも思つてゐなかつた。何んとも思つてゐなかつたればこそ市藏なんかをすつかり忘れてゐた。

○市藏  
(タイトル)  
戀か——これが片戀！  
○市藏  
(タイトル)  
その思ひを振り切らうとする痛ましい努力

○或る日。  
○或る川のほとり。  
○川のほとりから見た山なみ。  
○川の流れてゐるさま。  
○本を讀んでゐる市藏。

○むかふ岸。  
おやすが近在の友の家へ行つたかへりに通る。  
市藏と目をあける。  
おやすもふと彼岸を見る目と目がびつたり出會ふおやす冷く笑ふ。そして行つて了ふ。  
市藏の目はおやすの背後を追ふ。  
——うらめしい悲しい表情。  
(タイトル)  
うちのめされた彼  
次へオーバアラツプ  
○川岸をあてどなく歩きゆ

く市藏  
(タイトル)  
失戀だ  
失戀だ  
されば彼はうちのめされた。  
○川岸を歩く市藏  
(タイトル)  
あのつれない笑ひ方  
○市藏はつたり頭をかへて草の上に倒れる。  
○そして市藏は家を飛び出した。

### 東京十軒店久月の雛人形陳列

お子様方が一年中で一番楽しみな桃のお節句が近づきました江戸の檜舞臺日本橋の十軒店で永年御愛顧を受けて居ります弊店は今度初めて御當地へ参りました。是非一度御覽の榮を得たく御待申して居ります。今後永く御引立を頂き度くと存じます。から値段と品質とで他店のまねの出來ぬ勉強を致します。

平町田町 (停車場前通り)  
平マーケツト内  
東京日本橋十軒店  
久月本店直營  
電話平局六〇三番

### 謹告

今般田町火災の際に類焼致し候爲め左記に於て一層の親切丁寧を旨として營業致す可く候間何卒御引立を賜り度御願ひ申し上げます

### 假營業所

平町田丸新デパート内  
根本時計店

### 特製 ヒナ人形

### ヒナ道具賣出し

日頃おなじみの御得意様方へ謝恩の爲め特賣致します。どうぞ御一覽の程を御願致します。

平三丁目  
金太郎玩具店

### 醫學博士 金太郎推獎

胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症  
肥り度い人の福音 熱くなく痕つかず無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器

福島縣平町五ノ廿八  
志賀齒科醫院  
福島縣平町白銀町九  
産婆 關口悦子

特卸 治療 代理部 賣部  
金拾參圓 藥及特効サツ五週間分付  
金拾圓 藥上製桐箱入一揃  
(説明書呈)

### 磐城名産

らか鹽と節經

### 魚問屋

店理代平命生本日大最優最  
榮盛賀志  
番一二三電 目丁四平

●小兒下痢一切小兒腸胃散● 堀藥局  
平町二丁目 電話三三六番



# 若松元赤井村長の 公文書偽造露見

## 遂に司直の發動を見る

### 虚偽の證明書作製

石城郡赤井村前議若松美三氏は昨日平署に召喚され長時間に亘つて取調べを受けたが右は同氏が赤井村長時代に於ける公文書偽造事件が端なくも其筋の探知する處となり急遽司直の活動を促すに至つたものにて仄聞する處に依れば昭和二年若松氏が

卅圓以上に證明翌六年にも十圓四十錢を卅圓以上と證明して居る事實が暴露するに至つた

爲め本日より藤田、上川、大和田、坂内諸訓導指導の下に非常訓練、ボンブ操法訓練の豫習を開始した

### 少年消防

### 訓練

### 検閲出場

平第一小學校内少年消防隊にては来る十五日警中グランドに於て舉行される警察署管内四町十八ヶ町村の聯合消防検閲に出場する

看護婦見習 平職業採用に骨折 紹介所では小學校卒業女生中の看護婦見習希望者を夫々斡旋就職せしめたが多数に及んだ事として未採用の者が好問に一名、内郷に三名、四倉に一名、平に六名、計十一名あり同紹介所では目下八方手を廻し採用者を求めて居ると

### 二七證文

### 實弟から

### 金を捲き上げ

石城郡夏井村字藤間農渡邊又吉(五)は同人の實弟重太郎(三)が内郷村字宮で

に味を占め同年九月頃再び又吉は同村の坂本四右工門(五)山名久松(五)兩名の名義を亂用して七百圓餘を詐取したが其後重太郎は

前記山名 外二名に返金を迫つた處借受けた覺がないとハネ付けられたので初めて實兄又吉に横領された事を知り實兄を告訴せん

永戸青年總會 石城郡永戸、箕輪兩村青年團では聯合の上来る十日午前八

としたのを夏井村議坂本衆之助氏が仲裁に這入り調停中である事平置に探知され文書偽造として目下關係人を呼出取調中である

### 井上縣議宅の

### 窃盜犯

#### 懲役一年言渡

石城郡赤井村大字赤井字比良三十一番地無職前科一犯木田勇(三)が去月三十日午後二時頃平町五丁目井上茂作事務所内金庫より家人の不在を奇貨として現金三十圓及金側懷中時計(クサリメタル付)時價九十圓を窃取した事は既報の如くであるが此れが公判は昨日午後一時より平區裁判所に於て

トランプが 堀に墜落し 黒山の人大かり 道路が細く進退兩難

### トランプが 堀に墜落し

### 黒山の人大かり

### 道路が細く進退兩難

平町三丁目飲食店第一新橋屋方前の川通りで昨夜七時頃石城郡上遠野村鈴木自動車運轉手小玉己末(三)がトランプに材木を満載して通行せんとしたが同所は幅一間位の道路の事として進退兩難に陥り自動車は傍の溝に墜落黒山の人だかりで大騒となつたが幸ひ負傷者は無かつた

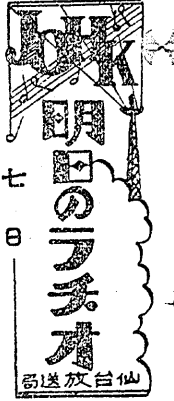
磐崎の競射 石城郡磐崎村武徳會支部の弓道部員は五日午後一時より小學校に總會を開催したが會後の競射に於いて左の三氏が優勝した

### 磐崎の競射

義勇機へ寄金 平土木監督所では義勇機福島號

永戸青年總會 石城郡永戸、箕輪兩村青年團では聯合の上来る十日午前八

義勇機へ寄金 平土木監督所では義勇機福島號



明日のラジオ

明日は北風 風晴れたり曇つたり

イオリン獨奏 小原威子 後二〇〇 婦人講座「ペロン情調と南方の女性」小松原敏 後六〇〇 子供の時間 ラヂオスケッチ「汐干狩」FKコードモータークル 後六、三〇 競馬講座「馬の改良と競馬」農林技師 佐々田伴久 後七、三〇 宗教講座「法然上人降誕八百年記念を迎へて」増上寺貫主道重 信教 花七夜(第七夜) 後八〇〇 落語「夜櫻」桂文治 後九〇〇 筑前琵琶「兒島高德」高峰筑風 後九、三〇 奉天より

### 今晚の部

後六、三〇 講演「ムツンリーニと伊太利の新教育制度」高橋泰 後七、三〇 講演「我が工學界の現状」海軍造船中將工學博士平賀讓 花七夜(第六夜) 後八、〇〇 清元 邦樂三名人會 清元延壽太夫外 後八、五〇 落語「花見小僧」三竹家小勝

### 明日の部

後九、一〇 和洋合奏 活オケストラ 後九、三〇 奉天より 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

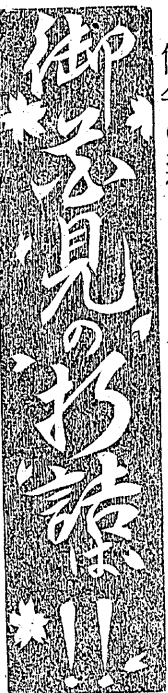
の建造資金を寄贈すべく小林所長以下三十餘名が十圓五十錢を繰出し本日縣へ送金したと

### 裁判所便り

石城郡湯本町字日渡六十番地自動車運轉手戸田堅太郎(三)及小名濱町字竹

### 魚清食堂部改築御披露

階上新築食堂は皆々様を御待ちしてゐます 何卒御立寄り下さい 例年の通り



御披露の折詰 最大 魚折詰 二十錢より 勉強 壽司折詰 二十錢より 本年の折箱は特に最新式の文化折箱を使用致します 多数は特に御相談に應じます

せ印 魚清食堂折詰部 平町字二丁目 電話六三三番



【禁酒上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

【第二十席】

神影流の達人秋山要介

(2)

要介禁酒を破る  
秋山要介は植松寅次郎と  
與に下野の佐野へ行くこと  
になつたが

要『江戸から佐野までは大  
分あるだらうな』

寅『イエ陸地は参りません  
先づ江戸川を溯つて流山、  
寶珠花關宿川股と行きまし  
て是から利根川に入り佐野  
の傍嶽田と云ふ處まで参れ  
ば、さして足を運ぶにも及  
びません』

要『それは有難い、船で行  
くは至極好都合』

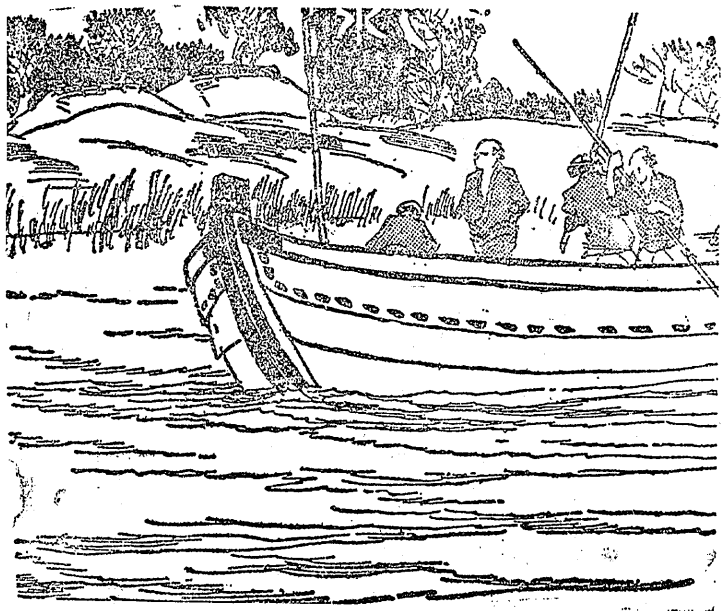
寅『然し先生、向ふへ行く  
まで禁酒して頂きます』

要『それは承知だ、どんな  
事があるとも佐野に参るま  
で盃は手に取らぬ』

寅『それを聞いて私も安心  
いたしました、何にしろ初  
めて佐野天明の領地を支配  
いたす私とて任地に赴く途  
中間違ひがありては身分に  
も關はります』

要『それは俺も心得て居る  
心配するな』

と云はれて植松も秋山が  
是程までに決心したならば  
大丈夫と思ひ茲で打連れて  
江戸を出立したのは五月の  
上旬で先づ江戸川を溯り下  
總關宿に來て川股から利根



川に入るこの船は井伊家の  
持船です要介は此處までは  
謹慎して酒も飲まずに居た  
が、船路は一層退屈、胸の  
間を出て艦の方に來ると恰  
度正午頃の事として船頭が四  
五人で鯉魚の刺身で酒を飲

と疲れるよ、時に貴様達は  
酒を飲んで居るやうだなど  
うだ俺にも飲ましてくれ然  
し俺が酒を飲んだと云ふ事  
は植松には申すな吳々も此  
事は斷つて置く』

要『何故先生はお酒を慎ん  
で居るな』  
寅『酒飲みに癖の無い者は  
ございませぬ、酔ふと面白  
くも無え事をグラ／＼笑ふ  
者もあり百年も前の事を云  
つて泣く者もありませぬ』

要『心配するな、此船に居  
る者は皆味方だ、味方を相  
手に喧嘩をする俺では無い  
さすれば天下は太平決して  
意に掛けるな、快い心地  
だ』

んでゐた。

要『甘さうだな、彼奴め舌  
打ちをして飲んでゐるそれ  
に鯉魚の皮付きの刺身と來  
ては酒飲みの味覺をそゝる  
なコレ／＼船頭』

酒だのこれは田舎酒では無  
いな』

要『地酒にしては飲み口が  
宜い、これは刺身か、鯉魚  
は皮付きに限るよ此頃の奴  
はこのピカ／＼光つて居る  
皮を見ると驚いて食へぬぞ  
で頂きます』

要『それは困りますな、併  
しもう召上つた以上は仕方  
がない、例の如く暴れると  
一同の迷惑それだけは慎ん  
で頂きます』

要『それは俺も心得て居る  
心配するな』

要『それは俺も心得て居る  
心配するな』

要『それは俺も心得て居る  
心配するな』

要『それは俺も心得て居る  
心配するな』

要『それは俺も心得て居る  
心配するな』

高橋時計店  
平橋町小橋路

鐘屋同店

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は『ス』の生命なり

安い！良い！

御裁縫用具が

澤山入荷致しました

平田町丸新デパート

(福島屋靴店隣り)

ハンモトヤ糸店

サートン 萬年筆

無代進呈!!!

學生用責任付の腕時計

お買ひ上げの方に……

修繕半額

ガラス入替金五錢

秋山時計店

平橋前

◎遠近 男女 自宅筆生募集

前金保證金等絶対不用實費郵券九錢封入御申込み  
次第即日より就業の材料内容一切送る

東京神田 通神保町三 星鳳社出版部